


福山市立福山中・高等学校 ESD実践の要諦

～未来をつくる力を育むESD型授業づくりのために～


ESD(持続可能な開発のための教育)は、持続可能な社会の創り手を育てる教育です。
一人ひとりの生徒が、身近な課題を自分事として捉え、他者と協働しながら、
よりよい未来を創造していく力を育てます。

ESD型授業づくりの5つの要諦


1 現実の課題に向き合う
身近な地域や社会、地球規模の課題を教材化し、生徒が「自分ごと」として捉えられるようにする。




2 多面的・総合的に考える
一つの正解にとらわれず、いろいろな立場や視点から考え、課題の背景やつながりを理解する。




3 対話と協働を重視する
多様な人と対話し、意見を出し合い、協力して考えることで、よりよい解決策を見出していく。




4 行動につなげる
考えたことを実際の行動に移す体験を重視する。小さな一歩が、社会や未来を変える力になる。



5 未来を創造する力を育む
持続可能な社会の実現に向けて、主体的に考え、他者とともに新たな価値を生み出す力を育てる。



教師の役割は「伴走者」
生徒たちの探究や対話を支え、問いを引き出し、学びを深める伴走者として関わりましょう。



ESDはSDGsの達成につながります



一人ひとりの学びが、みんなの未来をつくる。

ESD型授業づくりのポイント

5つの要諦を踏まえ、授業づくりの各場面で大切にしたいポイントをまとめました。

①課題の設定	②情報の収集・整理	③考える・話し合う	④まとめ・表現	⑤ふり返り・行動
 身近な課題から問いを見いだす	 多様な情報を集め、つながりを理解する	 多面的に考え、対話を通して深める	 自分たちの考えをまとめ、表現する	 学びをふり返り、次の行動につなげる

ESD型授業の工夫例

教科横断的な視点 教科・領域を超えて知識をつなぎ、総合的な理解を深める。 	地域・人とのつながり 地域の人材や施設、自然、文化などを活用する。 	体験的な学び 見学・調査・体験活動などを通して、実感を伴う学びを大切にする。 	ICTの活用 情報の収集・整理・発信にICTを効果的に活用する。 
---	--	---	---

ESDの単元授業はどのように設計すればよいのか？(英語科を例に)

社会課題を軸に、「問い→比較→意味づけ→行動」の流れで設計する。
例) 高1 英語科 ESD授業案(単元モデル): 英語力+思考力+行動力を育てる
■ 単元概要

項目	内容
単元名	My Action for a Better Future (4時間) ※テーマ: 環境問題(例: プラスチック・CO ₂ など)
単元の問い	「自分とはどんな行動で社会をよりよくできるか?」
ESDの視点	<input type="checkbox"/> 問い(社会とつながる問いを入れる) <input type="checkbox"/> 比較(日本と世界を比べる) <input type="checkbox"/> 意味づけ(社会との関係を考える) <input type="checkbox"/> 行動(自分の行動を考える)
単元目標例	<input type="checkbox"/> 英語(自分の意見を理由とともに英語で伝える) <input type="checkbox"/> 思考(社会課題を比較しながら理解する) <input type="checkbox"/> 行動(自分でできる行動を考える)
評価例	<input type="checkbox"/> 思考(多面的に考えているか) <input type="checkbox"/> 表現(英語で伝えているか) <input type="checkbox"/> 協働(他者と交流しているか) <input type="checkbox"/> 行動(行動につながっているか)

■ 単元の流れ(4時間)

時	学習段階	活動内容	発問(ESD)	ESD要素	英語表現
1	導入(気づき)	写真・資料から問題を知る	日本と世界で何が違う?	問い/多様性/社会性	I think... / In Japan...
2	理解(意味づけ)	原因・影響を考える	この問題は誰に影響する?	問い/社会性/意味	This problem affects...
3	思考(自分ごと)	解決策を考える	自分たちに何が出来る?	問い/対話/行動	We can... / I will...
4	発信(行動)	ミニプレゼン	どう行動する?	行動/表現/社会性	I will... / We should...

ESDで、持続可能な未来を共に創っていきましょう!



福山市立福山中・高等学校

ESDで、すべての学びが「未来をつくる力」に変わる!



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

一人ひとりの学びが、みんなの未来をつくる。

1 教科でESDを取り入れると授業がどう変わるのか?

→ 各教科の学びが「社会課題」と結びつき、意味のある「深い学び」へと変わる。

教科	従来の授業 (Before)	ESD的な授業 (After) (*テーマ例)
国語	読解・要約中心で社会との接続が弱い	□ 社会課題を題材に価値観を対話・表現 (例: 環境・貧困・戦争)
123 数学	計算練習中心で生活や社会と分離	□ 実社会のデータを用いた分析・予測 (例: CO ₂ 排出量、貧困率)
英語	文法・読解中心で発信は限定的	□ SDGsや国際課題を英語で考え・発信 (例: 気候変動、難民問題)
理科	実験や法則理解が中心	□ 科学を社会課題と結びつけて学ぶ (例: エネルギー問題、気候変動)
地・公	知識暗記・制度理解中心	□ 地域課題やSDGsをもとに考察・提案・発表 (例: 地域の防災や少子高齢化)
情報	操作・文書作成スキル中心	□ 社会課題を可視化・分析・発信 (例: データ分析、啓発動画)
技・家	技能や知識の習得が中心	□ サステナブルな設計や消費の影響を学ぶ (例: 省エネ、地産地消)
保・体	健康知識や運動技能の習得が中心	□ 健康を社会課題や共生と関連づけて考える (例: ウェルビーイング、平和とスポーツ)
音楽	鑑賞・合奏中心	□ 社会的テーマを音楽で表現・対話・創作 (例: 平和、環境)
美術	技法習得・模写中心	□ 社会課題に向けた作品制作と発信 (例: ポスター制作)
書道	美しさ・技巧重視	□ メッセージ性を込めた言葉の表現 (例: 社会課題をテーマに)
特活	与えられた役割をこなす	□ 生徒主体で学校・地域をよりよくなる活動 (例: SDGs 委員会)
探究	興味中心の調べ学習	□ 社会課題を起点とした課題解決型学習 (例: 地域課題プロジェクト)

教科の枠をこえてつながる学びが、課題解決に向かう力を育てます。



まとめ ESDの視点をもつことで、学びの意味がつながり、行動が未来を変える力になります。



2 ESDを意識すると国際交流はどう変わるのか?

→ 「交流」や「体験」にとどまらず、「社会」とつながり、「未来を共に創る学び」へと深まる。

視点	内容
多様性	□ 違いに気づく (例: 同じ問題でも国によって考え方が違う)
共生	□ 分かり合う方法を考える (例: どうすれば理解し合えるか考える)
社会課題	□ 共通課題を考える (例: SDGsテーマでプレゼンや意見交換を行う)
体験	□ 実体験を学びに変える (例: 海外修学旅行で現地の課題を比較・発信する)

※ ただし、発表だけでは不十分なため、以下の視点を加えることでESDになる。

【ESDになる発表の視点】(重要)	
視点	内容
比較	□ 違いに気づく (例: 日本との違いは何か?)
意味づけ	□ 社会とつなげる (例: どんな課題が見えたか?)
行動	□ 自分ごとにする (例: 自分たちに何が出来るか?)

※ 国際交流は「体験」で終わらず、比較・対話・発信・行動につなげることでESDになる。
 ※ 国際交流の学びは、「体験 → 比較 → 意味づけ → 行動」につなげることで深まる。



3 ESDの視点 (見方・考え方) で、学校全体はどう変わるのか?

→ すべての教育活動が、「社会をよりよくなる問いと行動の場」へと変わる。
 (「私たちは何のために学び、何のために活動するのか」という問いの軸を見つめ直すことにもつながる。)

教育活動	従来の見方・問い	ESD的な見方・問い (改善の視点)
授業 (教科学習)	知識を覚える・得点力を上げる	□ 社会とのつながり (例: 「この学びは社会や未来とどうつながる?」「誰の役に立つ?」)
探究の時間	興味を調べて発表する	□ 課題解決 (例: 「社会のどんな課題を、誰とどう解決するか?」)
部活動	勝利や技術向上を目指す	□ 社会的価値・影響 (例: 「活動を通して、どんな価値や影響を社会に届けられるか?」)
委員会活動	与えられた役割を果たす	□ 協働・参画 (例: 「学校をより良くするには何が出来るか? 誰とどう協力するか?」)
学校行事 (文化祭等)	盛り上がるのが成功	□ 意味づけ・発信 (例: 「この行事にどんなメッセージを込めるか? 社会や地域にどんな影響を与えるか?」)
修学旅行	観光中心・思い出づくり	□ 地域理解・発信 (例: 「地域の課題や魅力にどう関わるか? 何を学び、どう発信するか?」)
地域連携活動	行事への参加・見学	□ 地域参画・未来志向 (例: 「地域の未来に必要なことは何か? 私たちはどう関わられるか?」)
清掃・当番活動	義務としてルールを守る	□ 価値・公共性 (例: 「この活動は誰のためか? どんな価値を生み出しているか?」)
ボランティア	一時的な「良い行い」	□ 持続性・貢献 (例: 「誰のために何を届けるか? どうすれば継続できるか?」)
国際交流	英語練習・異文化紹介	□ 多様性・共生 (例: 「違いから何を学び、どう共に未来を築くか?」)
進路指導	偏差値や安定性で考える	□ 進路・社会貢献 (例: 「どんな社会課題に関わりたいか? どんな未来を創りたいか?」)

「知る」から「つながる」、そして「変える」へ。
 みんなで、持続可能で平和な未来をつくっていきましょう!

